



9 月号
2023 No.15



中日新聞「リンクト」
LINKED
plus+
病院を
知ろう

SPECIAL REPORT

放射線治療の進化が
がんの治療効果を高める。

がん診療(放射線療法)特集

CONTENTS

- 1 Cure 治療のおはなし
- 2 Care 治療支援のおはなし
- 3 地域医療を支える新しい力
- 4 地域医療の豆知識
- 5 NEWS & TOPICS

Message
院長メッセージ

当院では今春、放射線治療専門医を招聘すると同時に、高精度放射線治療装置を導入。これにより、がんの3大治療である手術、化学療法、放射線治療を組み合わせ、高度ながん診療を西尾で完結できる体制が整いました。今回の特集では、当院で動き出した高精度な放射線治療体制についてご紹介しています。ぜひご一読ください。

SPECIAL REPORT

放射線治療の進化が がんの治療効果を高める。

がん診療(放射線療法)特集

先進的な放射線治療装置を導入し、
がんの集学的治療を推進する。

CHAPTER 01 ミーティングから始まる 放射線科の一日。

西尾市民病院の放射線科では、毎朝スタッフが集まり、10〜20分ほどのミーティングが行われている。参加するのは、放射線科医師の江部和勇をはじめ、診療放射線技師や看護師たちである。「Aさんは、昨日、皮膚に発疹ができていたので、放射線を当てる前に経過を確認してください」「今日からBさんの治療が始まります。最初は不安だと思うので、丁寧に案内しましょう」「Cさんは今日から照射のプランを少し変更しますので、注意してください」。江部医師からいくつかの注意事項が伝えられ、診療放射線技師、看護師からもそれぞれ必要な連絡事項が伝達された。

同院では令和5年4月、高精度な放射線治療装置(トモセラピー)が導入されるとともに、放射線治療専門医として江部が赴任した。このミーティングは、その新体制とともにスタートした取り組みである。「新しいことを始めるときは、スタッフ間のコミュニケーションがとて大切になります。当院ではすでに、診療放射線技師や看護師の皆さんのチームがあつて、そこに新参者の私加わった形ですが、毎朝のミーティングを通してお互いの距離が縮まってきたように感じています。ミーティングでは、私の足りない部分を指摘してもらつこともありますし、反対に、「放射線治療につ

いて教えてください」と言ってもらつこともあります。スタッフの意欲も高く、いい雰囲気です。江部は説明する。放射線治療専門放射線技師、放射線治療品質管理士の資格を持つ山本公大技師も、その意見に同意する。「以前は放射線治療の先生に、週1回来ていたたく体制で、放射線治療チームのすることも限界があり、難しい症例は近隣の病院に紹介していました。でも今は、江部先生が常勤になりました。でも今は、江部先生が常勤になり、高精度な装置も導入され、看護師も放射線科専属体制になり、スタッフみんなモチベーションが上がっています。治療を受ける患者さんの症状は多様で、放射線治療の方法もいろいろありますが、それぞれの治療計画をしっかりと確認しながら、患者さんに安心して治療を受けていただけるよう、日々の仕事に取り組んでいます」。

COLUMN

●放射線治療は、手術のようにがん細胞を切除する必要がないため、苦痛の少ない治療法といえる。しかし、放射線によって少なからず被曝のリスクがあり、照射する部位によって、皮膚の変化、脱毛、口の渇き、咳、息切れなどの副作用も生じる。

●(トモセラピー)は、がん細胞にピンポイントで照射できるため、こうした副作用を少なく抑えることが期待できる。より体にやさしい治療法へ、放射線治療は進化を続けている。

治療支援 の おはなし

テーマ

放射線治療の看護

毎日の放射線治療に寄り添い、
治療と日常生活の両立を
サポートしています。

病気を
治すだけじゃ
ありません。



01 患者さんが安心して治療を受けられるよう支えます。

放射線治療の治療期間は症状や目的によってさまざまですが、一般的には、4～7週間程度、毎日、通院していただくことになります。この間に中断してしまうと、治療効果に影響が出るため、できる限り完遂することが重要です。

看護師は、その治療期間中ずっと患者さんに寄り添う、一番身近なスタッフです。当院では、放射線治療について正しい知識を身につけた専属の看護師を配属。毎日の治療に寄り添うとともに、治療中の副作用や生活上の注意点などについてわかりやすく説明し、患者さんが効果的な治療を続けられるように支えています。

02 通院しやすいように、きめ細かく配慮しています。

放射線治療を受ける患者さんのためにとくに配慮しているのは、スケジュールの調整です。仕事を持っている方の場合、できる限り仕事と両立できる時間帯を設定。ご高齢の患者さんの場合、送迎するご家族の都合もよくお聞きして、無理なく通院できるようにスケジュールを調整しています。

また、副作用のケアにも力を注いでいます。治療中は放射線をあてる部位に皮膚の炎症が起きたり、咽頭部であれば口腔乾燥の症状が出たり、口内炎ができたりします。また、全身の症状として、だるさや疲労感、頭痛、食欲不振などが生じることもあります。こうした場合、医師と相談し、薬を処方したり、副作用を軽減するための生活上の工夫を伝えるなどして、最後まで治療が続けられるようしっかり支えています。



Message

私たちが支援します



放射線科
糟谷由美子(放射線科師長)
大竹善子(看護師)

「もしも自分なら」という視点を常に持つ。

放射線治療の看護で大切にしているのは、「もし自分だったら、自分の親だったら、どうしてほしいか」という視点を持つことです。たとえば、乳がんの手術を終えて、放射線治療を受ける患者さんの場合、術後の精神的な不安や乳房の喪失感に配慮し、「もし自分だったら」と考えて、きめ細かく配慮するよう努めています。

また放射線治療は、末期がんを対象にしていた昔とは違い、前向きに生きるための治療でもあります。手術や抗がん剤治療を乗り越え、あとは放射線治療をやり遂げて、これから元気に生きていこう。そんな患者さんの気持ちを後押しできるように、私たちもできるだけ明るい雰囲気でするようにいつも心がけています。

公式SNSで西尾市民病院の魅力を発信!

西尾市民病院では、各種公式SNSを開設し、地域の皆さんにさまざまな情報を発信しています。この度、新たにInstagramを開設しました。

新着情報、イベント情報、病院職員採用に関する情報など、西尾市民病院の魅力を多くの方にお伝えしたいと思います。ぜひご覧ください。

西尾市民病院公式SNS

Instagram



Facebook



西尾市民病院

検索

フォロー、いいね! よろしくお願ひします!



地域医療デジタル掲示板 広告募集

企業の皆さま、医療機関・介護施設の皆さま

西尾市民病院、市役所設置の大型モニターで
市民の皆さんに情報をお届けできます。

※掲載事項および内容には、審査がございます。

お問い合わせ・
お申し込みは
こちらから

合同会社プロジェクトリンク事務局
info@project-linked.com



看護師募集中!

お気軽にお問い合わせください。



安心して働ける
サポートがあります。

お問い合わせ先

西尾市民病院 事務部 管理課 職員担当
0563-56-3171 (内線2286)

病院広報WEBマガジン



こちらから



西尾市民病院からの最新TOPICS
や検査・治療・ケアに関する情報などをお届けします。ぜひご覧ください。

LINE〈公式〉アカウント

病院広報誌「Ciao」のLINE〈公式〉アカウント
を開設しました。QRコードから「友だち追加」を
お願いいたします。



西尾市民病院

NISHIO MUNICIPAL HOSPITAL

〒445-8510 愛知県西尾市熊味町上泡原6番地

TEL 0563-56-3171(代表) URL <https://hospital.city.nishio.aichi.jp/>

9 2023
月号 No.15

発行責任者/院長 棚宜田 政隆

発行/西尾市民病院

記事提供/中日新聞広告局

編集協力/プロジェクトリンク事務局

発行日/2023年9月8日



CHAPTER 02

内科、外科と連携し がんの治療成績を上げる。

今回、導入された高精度な放射線治療装置（トモセラピー）はどんな装置だろうか。「当院で従来使っていた放射線治療装置はリニアックですが、トモセラピーは、そのリニアックとCT（コンピュータ断層撮影装置）を一体化させた装置です。CT撮影と同じように、X線が患者さんの周りを360度回転し、がんの病巣を立体的に描出し、それに合わせてピンポイントで放射線を集中照射することが出来る仕組みです。さらに照射法は、強度変調放射線治療（IMRT）といつて、がんの形や部位、大きさに合わせて照射量や強度を変化させることが出来るので、周囲の正常組織への影響を限りなく減らすことができます」と江部は説明する。

た病変に対して行う術後放射線治療、手術の難しいがんの根治的な治療、さらに骨や脳に転移したがんの放射線治療などだ。がん治療では、手術だけでなく、放射線治療や抗がん剤治療などを組み合わせる集学的治療が標準である。高精度な装置と放射線治療チームが確立されたことにより、がんの集学的治療体制が整ったと言うことができるだろう。

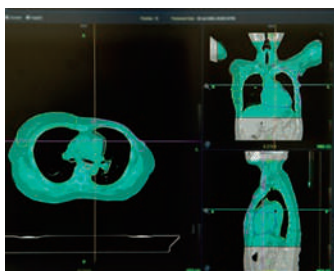
最後に今後の抱負について、江部に聞いた。「がんの放射線治療は、内科や外科の治療をサポートするような役割を担っていると考えています。放射線を使うことにより、手術療法や薬物療法の治療成績を少しでも上げるよう貢献していきたいですね。また、将来的には、内科や外科の先生たちとがん患者さんの治療方針について総合的なカンファレンスを開くような体制を作れたら理想的だと考えています。診療科を超えた連携を深めることで、ここ西尾で高度ながん診療を完結できる体制を確立していきたいと思っています」。

BACKSTAGE

生活圏のなかで、がん診療を完結させる重要性。

●がんは、長期にわたり治療が必要な病気である。手術をしたら終わりではなく、仕事を続けながら通院し、抗がん剤治療や放射線治療を受けることも多い。さらにその後も再発予防のために定期的な検査が必要になる。

●そうした治療のすべてを身近な病院でこなせることができれば、患者や家族にとって利便性は高い。西尾市民病院はがん診療を強化することで、市民病院としての存在価値をさらに高めようとしている。



地域医療を支える

新しい力

チカラ

対談企画

初期臨床研修医

新人看護師

私たちの
仲間を
ご紹介。

教えることは、学ぶこと。後輩とともに成長を！



お2人とも当院に入って2年目となりました。
1年目との変化を含め、近況をお聞かせください。

北川 後輩ができたのが一番の変化ですね。彼らが慣れてくるまで面倒をみたり、指導をしたりするのが、僕たちの役割なんです。年齢が近いので、いい雰囲気でお互い働くことができ、自分自身の意識も1年目とは変わってきました。

野村 私も同じです。変化に気づく自分がいます。

北川 やっぱり！僕は1年目の最後の方で少し出てきた自信が、「いや、まだまだだ」とよく気づかされますね。

野村 私も年齢が近いということで、後輩にとって聞きやすいのか、すごく頼りにされているなど感じるんです。少しだけ先輩になった実感はあるのですが、「いや、待てよ」と。私ってそんな教えられる立場なのか？ 教える内容は間違っていないのか？と、自分のなかで確かめることが多々あります。

北川 自分に足りているものと、足りていないものが見えてくる。「教えることは、学ぶこと」ですね！



今後、さらに学びと経験を積み重ね、
どんな医師、どんな看護師になりたいですか？

北川 僕は、精神科医をめざしているんです。精神科は、日頃あまり馴染みがないと思われがちですが、今日の複雑な社会・時代では、実は重要な専門領域だと思うんですね。

野村 精神科のなかで特に興味があることは何ですか？

北川 精神科のなかでもリハビリテーションに興味があります。体を動かしたり、他の人と作業をしたりして、お薬だけではない医療をめざしたいですね。野村さんは？

野村 めざす看護師が2人います。私は、中学生のとき長期入院したのですが、そこで出会った看護師がとてもやさしくて、かっこよくて。もう一人は、入職1年目の時の先輩看護師。患者さんには言うまでもなく、スタッフに対しても気遣いがあり、後輩への指導方法も一人ひとりのために考えてくれました。二人のような看護師になることを目標としています。

北川 ぜひ頑張ってください。僕も負けずに頑張ります！

初期臨床研修医(2年目)

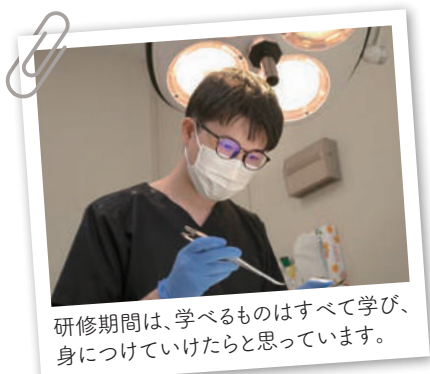
北川聖起(きたがわ まさき)

愛知県知立市出身。中学生のときの手術・入院経験が、自分の強みになっています。

新人看護師(2年目)

野村葉月(のむら はづき)

愛知県西尾市出身。所属の地域包括ケア病棟では、基礎の基礎から学んでいます。



研修期間は、学べるものはすべて学び、身につけていけたらと思っています。



患者さんを受け持つようになり、その方の今後を一生懸命に考え始めました。

こんな言葉知っていますか？ 地域医療の 豆知識

M A M E C H I S H I K I

テーマ 患者相談窓口

今回は
〈患者相談窓口〉に
ついて学びましょう



医療と生活の両面で、 患者さんご家族をサポートする、 病院の体制強化が図られています。

平成24年度の診療報酬改定で、「患者サポート体制」という新たな評価が加わり、多くの病院に、患者さんを支援する部署が設けられてきました。その目的は、医療と生活の両面で、さまざまな困難を抱えた患者さんご家族を支援することにあります。

評価(加算)の条件としては、病気に関する医学的な質問、生活上や入院上のさまざまな不安など、多様な相談に対応する窓口を病院内に設置していること。当該部署には、相談内容に応じて適切な対応ができるよう医師、看護師、薬剤師、社会福祉士、またはその他医療有資格者など、専任の担当者を、標榜時間内において常時配置していることなどが定められています。

今日は、地域医療の変化により、医療依存度の高い状態で自宅療養する方や、高齢患者さんの独居、老老介護家庭などが増加し、社会的な支援を必要とする方々が増えています。患者さん本人・ご家族の希望や思いを実現するためにも、多職種が取り組む患者サポート体制には、期待が寄せられています。



西尾市民病院では

悩み、不安、疑問。どこに行けばいい？と迷ったら「患者相談窓口」です。

西尾市民病院の「患者相談窓口」は、令和2年に誕生した新たな患者サポート機能です。

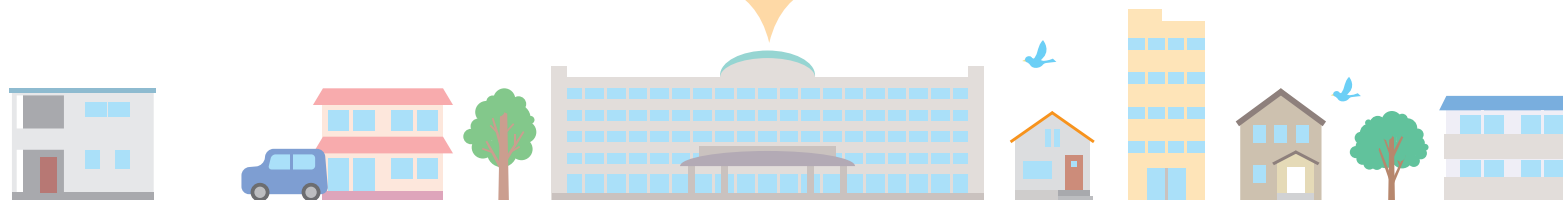
当院では、以前より患者さんの退院調整や社会福祉に関する相談にはお応えしてきましたが、そうした機能・役割を集約して強化を図るために「患者支援室」として改め、令和2年に再スタートしました。入退院支援、医療福祉相談、患者支援の3つの役割を担い、患者さんやご家族のサポートに力を注いできました。それらのさらなる充実をめざし増設されたのが、「患者相談窓口」です。

患者相談窓口の役割は、簡単に言うと水先案内係。患者さんやご家族が持つ悩みや不安や疑問などを、どの誰に言えばよいか迷ったとき、ここに来て何でもお話し

ください。窓口担当者が、公平で客観的な第三者的な立場で、しっかりとお話を伺った上で、適切にお応えできる担当職員へと確実に繋ぎます。

医療を受けるとき、心配事や気になることは誰にでもあります。また、当院自体へのご意見もあるかと思います。そんなときはまずは患者相談窓口をご利用ください。当院の患者さんだけに限らず、市民のための病院として、地域の方からのご相談もお受けします。

患者支援室 患者相談窓口 看護師
石川政美



キュア Cure 治療 の おはなし

先生、
教えて！

テーマ

放射線治療

がん3大治療の一つ。
手術療法、化学療法と組み合わせて、
がんの治療効果を高めます。

技術の進歩がめざましい 放射線治療。

がん細胞の多くは、正常な細胞に比べて放射線に弱い性質を持っています。この性質を利用して、がん細胞に放射線を照射するのが放射線治療です。放射線治療には、がんの根治をめざす治療のほか、がんによる痛みを緩和する治療、手術後の再発予防を目的とした治療などがあります。

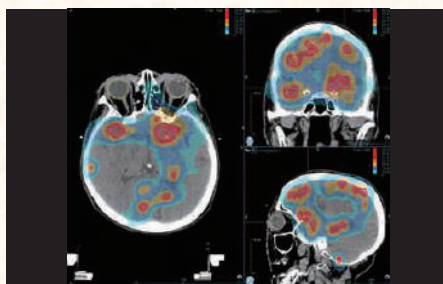
昔は放射線治療というと末期がんに対する最後の治療法というイメージもありましたが、近年の技術の進歩はめざましく、放射線をがん病巣に集中させることにより、副作用を抑えながら、手術療法や化学療法に並ぶ高い治療効果を引き出すことができます。

高精度の照射で、がんの 病巣を狙い撃ちにします。

当院では今春、高精度放射線治療装置〈トモセラピー〉を導入し、乳がんや肺がんなどの放射線治療に取り組んでいます（詳しくは、特集記事を参照）。この装置の優れているところは、ピンポイントでがん病巣を狙い撃ちにできることです。周囲の正常組織をできる限り傷つけることなく治療できるので、副作用を軽減しながら治療効果を高めるこ

とが期待できます。

治療にあたっては、CT画像を基にがん細胞の位置や形を特定し、放射線を照射する角度や線量を決定。最大限の効果をめざして、最適な治療方法を綿密に計画します。なお、放射線治療は通常、外来で行います。たとえば25回照射する場合、週5回の通院を5週間、続けます。1回の照射時間は3～10分ほどで、準備も含めて治療は15～20分程度で終わります。



Message

医師からのメッセージ



放射線科
江部和勇

チーム全員で力を合わせ、患者さんを支えます。

当院では、放射線治療の専門医、診療放射線技師、看護師によるチームを組んで、患者さんに安心して治療を受けていただける体制を整えています。医師の役割は、最初の治療計画と患者さんの体調管理。治療中は定期的に診察し、副作用などに対応します。実際の照射は、〈放射線治療専門放射線技師〉〈放射線治療品質管理士〉の資格を持つエキスパートを中心にした診療放射線技師が担当。そして、放射線科専属の看護師が、患者さんやご家族が安心して治療が続けられるよう生活面から支えています。

チームのメンバーは常に情報共有し、チームワークも良好。患者さんが安心して放射線治療が受けられるよう、みんなの力を合わせて取り組んでいます。